

今月の表紙 涼しげな不動の滝遊歩道にて
今号6~7ページでご紹介している「町内の涼しいところ」を探して不動の滝を訪れました。数日前に降った雨の影響か、水量も多くて迫力満点。水しぶきがかかるのも気にせずカメラを構え続けました。そして帰り際、うっとうと茂る木々と遊歩道の様子がとても涼しげなのを見た。今月の表紙はこれでいいと思った瞬間でした。暑い日が続きます。少しでも「涼」を感じていただければ幸いです。



目次 contents

2 シリーズ 地域再発見の学び舎

川根茶塾専門講座「川根茶の心を知る」を開催しました



P5

4 〈3回シリーズ〉 静岡県戦略課題研究リポート 大井川流域の景観を考える 第3回

川根らしい茶園景観とは…／地域景観再発見！の参加者募集

6 涼をもとめて ~町内、涼しいところ探し。~

8 役場の窓辺から

産業文化祭の日程が決まりました／特設人権相談所の開設／人へ、未来へ！「接岨湖フェスタ」の開催案内／ほか

15 まちの話題

社会を明るくする運動街頭啓発を実施／中川根南部小で交通安全教室開催／平成19年度町茶品評会を開催／ほか



P7

19 地球に "イイコト" 始めよう 地球温暖化を防ぐために何ができるだろう？



P13

20 生涯学習のひろば 生涯学習推進協議会開催／むつみ学級が始まりました／ほか



P15

22 くらしの情報ページ

危険物取扱者試験のご案内／地上アナログテレビ放送終了のお知らせ／応急手当普及員養成講習などのご案内／ほか

24 みんなの広場

戸籍の窓辺／生まれてくれて、ありがとう／クッキングレシピ かざり寿司／ほか

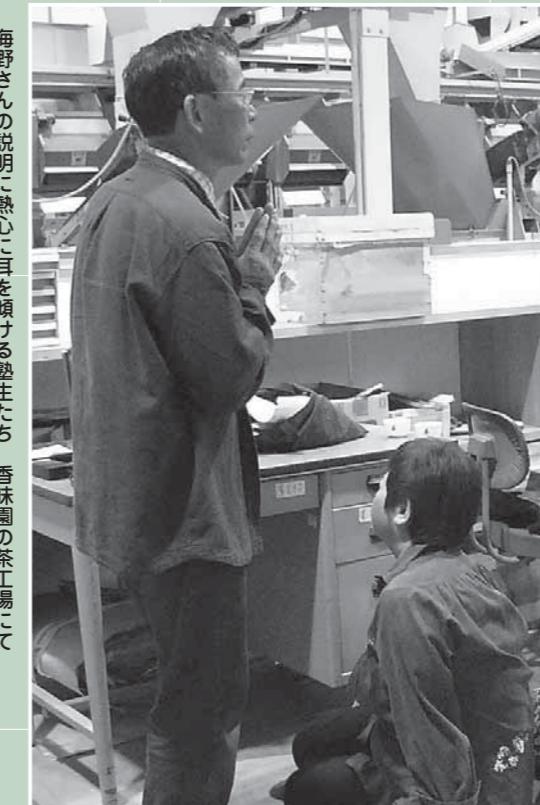
26 学校レポーター'sコラム

川根高等学校 1年 中村昂亮さん

綴じ込み

くらしのカレンダー

シリーズ 地域再発見の学び舎



海野さんの説明に熱心に耳を傾ける塾生たち 香味園の茶工場にて

かわねちゃじゅく 【 川根茶塾 】

川根本町には、地域の歴史や文化、風土、伝統などを多方面から楽しみながら学ぶ講座があります。地域の魅力を発掘する「千年の学校」と「川根茶塾」。この2つの講座を通して、自らが住む地域に誇りを持つ人材を育成し、活力に溌ちたまちづくりの実現を目指しています。このシリーズでは、地域の魅力を掘り起こす各講座の様子をお伝えしていきます。

6月9日、香味園（三益地区）において、塾生20名が参加し第2回専門講座が行われました。今年の川根茶塾のテーマは、川根茶の心を知る。抽象的なテーマですが、川根茶をつくる人、売る人など川根茶に関わっている人と交流を通じて「川根茶の心」を感じるというものです。

今回の講師は、茶農家の海野善久さん（池の谷地区）で、11年前に3軒の農家で製茶工場「香味園」を設立し、川根茶づくり、まちづくりに取り組んでいます。海野さんは、7年前から援農隊「ボラバイト」（農業や酪農作業を体験したい若者が登録し、北海道から沖縄までの農家・牧場などで1週間から数週間ほど住み込みで働く。ボラバイトとはボランティアとアルバイトを合わせた造語）の若者を毎年数名、受け入れており「援農隊で来る若者は柔軟で順応性、協調性があり、皆いい子です。その子たちに毎年元気をもらっています」と語り「茶農家の後継者不足はどうにもならないと考えています。援農隊のような若者や退職した団塊の世代などの外部

講義のあと、製茶工場で生葉から荒茶になるまでの工程を見学し、川根茶をつくるには4.5kgもの生葉が必要であること、川根茶は1kgの荒茶をつくるには4.5kgもの生葉が必要であること、川根茶は日照時間が短くタンニンが少ないため蒸し方が浅いこと、お茶は食体験したい若者が登録し、北海道から沖縄までの農家・牧場などで1週間から数週間ほど住み込みで働く。ボラバイトとはボランティアとアルバイトを合わせた造語）の若者を毎年数名、受け入れており「援農隊で来る若者は柔軟で順応性、協調性があり、皆いい子です。その子たちに毎年元気をもらっています」と語り「茶農家の後継者不足はどうにもならないと考えています。援農隊のような若者や退職した団塊の世代などの外部

講義のあと、製茶工場で生葉から荒茶になるまでの工程を見学し、川根茶をつくるには4.5kgもの生葉が必要であること、川根茶は日照時間が短くタンニンが少ないため蒸し方が浅いこと、お茶は食体験では、分析器で測定した100gあたり5千円、1千円、2百円のお茶を分析結果の数値を見ながら飲み比べ、成分の違いと味の違いを確認しました。また、塾生が普段自宅で飲んでいるお茶を持ち寄り、分析器の数値結果に一喜一憂する姿も見られました。

専門講座「川根茶の心を知る」

の人を受け入れることが必要でそのためのネットワークづくり、体

づくりが必要です」「川根茶の産地が消える前に手を打たなければなりません。お茶に限らず中山間地の営みをどうして行くかをみんなで考えたいと思います」と危機感を表し、塾生の皆さんに訴えました。